

「少子化・晩婚化」に関する調査

株式会社 イー・ウーマン
http://www.ewoman.co.jp/

日本の2030年の労働人口は、現在と比べ1070万人も減少すると厚生労働省が発表した。働き手の急速な減少の要因でもある「少子化晩婚化」について、働く女性たちはどのように考えているのだろうか。様々な価値観を持つイー・ウーマンリーダーズに対して、「少子化・晩婚化」に関する調査を行い、809名より回答を得た。

■ パートナーに求めること …… グラフ1 グラフ2

いろいろな結婚のかたちがある中、イー・ウーマンでは「パートナー」という言葉を通常使って結婚の形式にとらわれない人たちもふくめて回答をしてもらっている。本調査でも「パートナー」という言葉を使うが、最初の問いはあえて具体的な定義をしない「結婚」という単語を使って質問した。「結婚をしたいと思いますか」という問いに対して、既婚者を除く回答者のうち、約80%が「どちらかといえばしたい」を選択している。また、パートナーに求めることとして、「年収300万円で、家事や育児など何でも協力的な人」と「年収1000万円で家事や育児など何も協力的でない人」のどちらか一人を選ぶなら、どちらを選ぶかと聞いたところ、前者は67.2%と、後者32.8%の倍以上の回答を得た。本結果は、前回2005年12月実施の「少子化・晩婚化」に関する調査（以下、前回実施の調査）における同結果と比較すると（前回結果「年収300万円で、家事や育児など何でも協力的な人」を選択した人が62.6%）、4.6ポイント増の結果が得られた。収入よりも家事や育児などへの協力を求める傾向は、働く女性が増えた現代において、多数派となっているようである。

■ 子どもは仕事にプラスの影響 …… グラフ3

次に、子どもをもつことと仕事の関係について、「子どもを持つことは、あなたの仕事に影響を与えますか?」と聞いたところ、現在、子どものいる人の70.0%が「プラスの影響」を与えると回答をした。子どもがいる人の7割もが、子どもが仕事に与える前向きな影響を実感値として持っていることがわかる。一方、子どものない人で「プラスの影響」と回答した人は52.8%に留まった。約半数の人は、子どもが仕事に与える影響を不安に思っていることが読み取れる。

■ 子どもは仕事の評価にもプラスの影響 …… グラフ4

前述のように、子どもを持つことが仕事に「プラスの影響」を与えると回答した人は多い。では、仕事の「評価」に対して与える影響はどうだろうか。「仕事をしながら、子どもをもつことが、職場でのあなたの「評価」に影響を与えましたか?お子さんがいない方は、与えると思いますか?」と問いかけたところ、子どもがいる人は、31.8%が「プラスの影響」と回答し、「マイナスの影響（26.8%）」よりも多く回答された。自分以外の外部による「評価」においても、子どもは前向きな影響を与えるという傾向は、大変興味深い結果となった。前回実施の調査においては、子どものありなしに関わらず、「マイナスの影響」と回答した人が最も多かった。「ワーキングマザーは幸せ」というイー・ウーマンのメッセージの一つは、着実に社会においても認知されてきているように思われる。

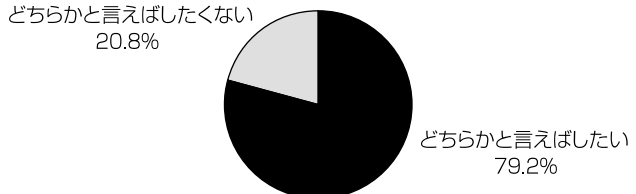
■ 子どもを産みたいですか? …… グラフ5

率直に子どもを産みたいと思うかを聞いたところ、現在子どものない人のうち、「産みたい」と回答したのは63.3%、「産みたくない」と回答したのは20.8%であった。引き続き、多くの人が子どもを産みたいと回答している。一方で、本結果を前回実施の調査と比較すると、「産みたい（前回70.3%）」は7ポイント減、「産みたくない（前回19.4%）」は1.4ポイント増という結果となった。子どもをもつことの前向きな影響が認められつつも、実際には、「産みたいと思えない何か」が増えている可能性も示唆される。

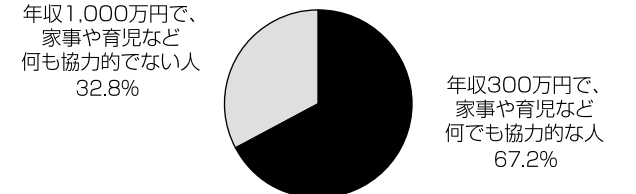
■ 今後の子育て…不安はココ! …… グラフ6

不安な気持ちの背景を探るため、子育ての不安要素を聞いた。もしこれから子どもを育てるとしたとき、「最も不安に思うこと」は何ですか?（単一回答）という問いに対して、子どものありなしに関わらず、「精神力・体力」が全体で約25%（子どもあり22.2%、子どもなし26.6%）と最も多く回答された。次に多かったのは、「保育所・学童保育・ベビーシッターなどの外部サポート」であり、こちらもそれぞれ、21.6%、24.0%となった。子どもを育てる年齢が高齢化することに伴い、自分自身の精神力や体力を不安に思う人が増えているようである。また、働く女性の増加により、外部のサポート先の確保は大きな不安要素となっているようである。興味深い点として、子どもをもたない人は、子どもをもつ人に比べて「離職や再就職などのキャリア面」、「コスト面」に関する不安が大きいことがわかる。これらの結果は、子育てを経験する前に感じている不安は、実際に子育てを経験したあとに感じる不安と少し内容が異なることを示唆している。子どもは仕事にとってもプラスの影響を与える、と前向きにとらえるワーキングマザーがより増加するためには、まずは環境面の不安要素を取り除くこと、そして関係者の理解促進が重要であろう。

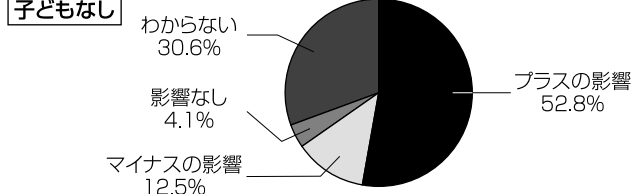
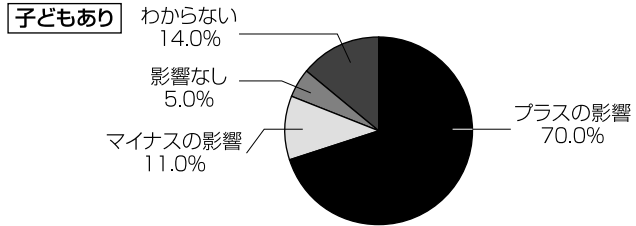
グラフ1 結婚したいと思いますか? （有効回答数=312）



グラフ2 パートナーを選ぶなら、どちらを選びますか?

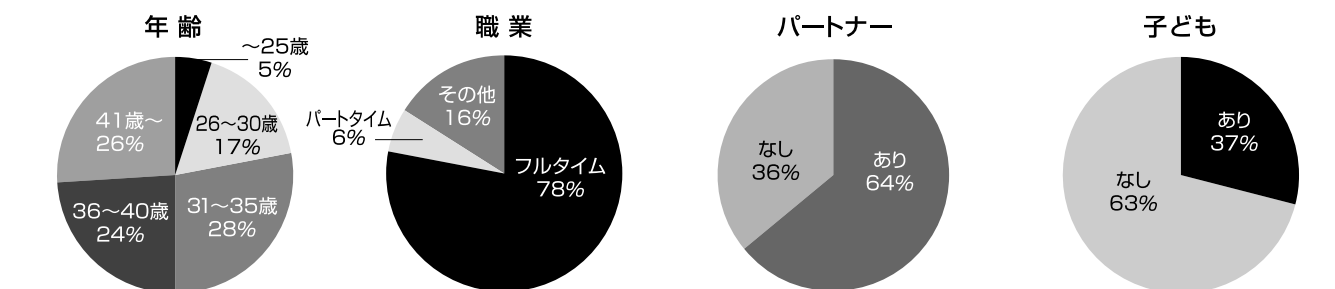


グラフ3 子どもをもつことは、あなたの仕事に影響を与えますか? （有効回答数 子どもあり=343名、子どもなし=392名）

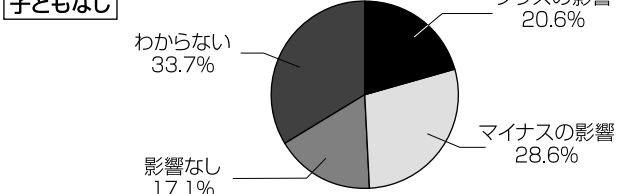
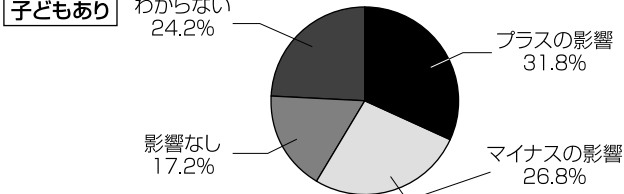


＜調査概要＞
調査実施:2007年12月20日(木)～12月25日(火)
調査方法:インターネットによる自記入式アンケート
対象:イー・ウーマンリーダーズ
有効回答数:809名

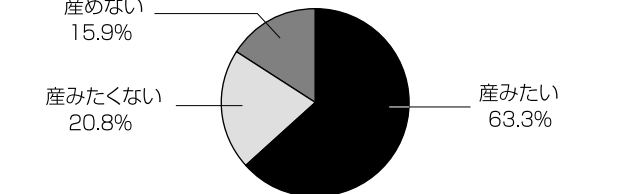
LEADERS DATA



グラフ4 仕事をしながら、子どもをもつことが、職場でのあなたの「評価」に影響を与えましたか? （有効回答数 子どもあり=343名、子どもなし=392名）



グラフ5 子どもを産みたいですか? （有効回答数 子どもなし=466）



グラフ6 もしこれから子どもを育てるとしたとき、「最も不安に思うこと」は何ですか? （単一回答）

